

# 町長の一言



## 財政状況と学校建設

平成20年度の予算等を  
決める3月議会定例会が  
終了しました。審議を経  
て、平成20年度一般会計  
予算90億4千万円、国民  
健康保険などの特別会計  
を合算した城里町の総予  
算163億4364万2  
千円が、議決されました。

この中に常北中学校建  
設関係の予算があります  
が、建設には多額の予算  
を必要としますので、段  
階的に進めていかなけれ  
ばなりません。平成19年  
度に校舎の耐力度調査、  
20年度に基本設計、21年  
度を実施設計で建設に入  
るわけですが、町の予算  
規模では、1年で建築工  
事を完成させることは無  
理であります。

学校建設は、町の一般  
財源、国庫補助それに借  
入れで行われます。平成  
20年度予算は、借入金9  
億3千万円、返済金13億  
2千万円となっております。

また、公園墓地建設のた  
め町開発公社が借入れた  
9億3900万円は平成  
21年11月に完済になる予  
定ですが、この返済分と  
して毎年2億円の財政負  
担があります。1年で建  
築費を借入れすれば、借  
金がなお増加するような  
状況になってしまったため、  
どうしても2年継続事業  
となります。平成22年度  
着工、23年度完成で進め  
ていく予定です。

ところで、公園墓地計  
画はどうなっているのか  
聞かれることがあります。  
前常北町長は「休止」と  
いう表現でしたが、私は  
平成18年12月のこの欄で  
「開発を進める考えはない」と  
書いております。「オ  
オタカ」の生息、急峻な  
地形の工事費による不採  
算、社会経済状況の変化、  
町民から墓地開発促進の  
声が無いことなどから判  
断し、「中止」であります。

## 文芸くらぶ

### 俳句



鉛を切る早さに見とれ春の旅  
山崎 正行  
辛夷咲く田を見守れる高さなり  
飯田 勇一  
雪解川湯気たちのぼる蕎麦処  
いそべきよ  
ひな祭筑波おろしの強きかな  
田所 厚子  
胸張って帰って来たり岩燕  
鯉淵寿美恵  
芹の根を分けて洗へり輝けり  
仲田まらゑ  
孟宗の竹青々と春の雪  
高橋 若江  
涅槃西風一人暮らしの母想ふ  
飯村 昭子  
春休みベダルの土の乾きけり  
竹内 幸子  
日を受けて社の椿三分咲き  
森 静江  
涅槃西風向き合いてゐる仁王像  
今瀬多代美  
家族には余ると思ふみかん買ふ  
飯村 愛子  
再会は満潮に似て梅の駅  
瀬谷 博子  
臨時駅観梅客の足繁し  
岩下 金司  
紅梅やほぐれる心整かれ  
田口 勝元  
雪降りや暖とり猫ととき過ごす  
富田 欽子  
味噌搗きやかすかに麴香りけり  
富田 多蔵

### 短歌



娘の姓も変はりて我が手より  
少し離れぬ水仙の角ぐむ季を  
渡辺千紗子  
千両を活け赤飯を仏前に供へて  
帰京す孫息は成人式に  
秋山 愛子  
改築の柱十五本に刀傷ありて  
水戸藩内戦の歴史甦る  
大森 久子  
「この年にならば判らぬと言ひし  
亡き母にしみじみと我が身重ねる  
佐川 あや  
手を上げて待てば寄り来て同  
席す視察研修にて親しめる友  
杉山みちこ  
福寿草丸き小首をもたげたり  
温き春日の軒下の鉢  
宮本ふみ江  
大彫りし千手観音(子歳)版画  
こころを込めて賀に押しせり  
所 美恵子  
「父似かな母似かな」と孫・曾  
孫と語りつつ初春の屠蘇酌む朝  
青柳 京子  
楽しみは春の花見に紅葉の温泉  
親子三代宿で寛ぐ  
山形 式妙  
初春の凍れる庭に風吹きて転が  
る枯葉に子猫転がる  
阿良山ウメノ  
餌求めピラカンサなる紅い実に  
メジロの数が増えてゆきたり  
岩下 通子  
雛祭り紅梅ふつくら笑み初めて  
ひ孫の髪も東風にゆらりと  
仲田 こう  
音もなく降り初む雪にナンテ  
ンのたわわなる実の紅く輝く  
鶴田 すが

### 川柳



年ませば日だまり嬉し春うら  
ら今朝は清らか草花の咲く  
市川 義子  
うすすらと真綿をひきしごとき  
白庭の枯れ芝おおう初雪  
枝 不美  
ひろがりゆく夕茜の色すら悲し  
かり逝きう旬日の歌友頭くれば  
片見 和枝  
朝起きて雪降り積むを見しと  
きは効ごころに返りときめく  
川上千代子  
ひな壇のつばに挿したる桃の花  
の今朝ひそやかに咲き初めぬ  
島 愛子  
ろう梅のほころび早し庭訪ふて  
陽が進ませし春に親しめり  
多田志保子  
夜の空ながめて居れば夫の事あ  
れこれ思い出され耐えがたし  
坪井きよ子  
羽子板の目元涼しき藤娘孫に  
重ねて折にふれ見やる  
萩谷登喜子  
みどり児は確かむること我を  
見つめつつ微笑めり初ひな祭り  
富田佐智子  
盗み酒摂りすぎ朝餉箸とれず  
青木新三郎  
浮雲も動物作る技がある  
北野 武  
那珂川の流れの様ながわが命  
永井 英陽  
不真面目に葉を飲んで長生きす  
山本 隆莊  
取った日は、パチプロ目指す気が起  
きる  
中島 芳春